

日本バプテスト連盟加盟諸教会・伝道所のみなさまへ

「いにしえの道を尋ね、良い道を求め」
(連盟理事会からの呼びかけ)

み名をあげさせたまえ。

私たち日本バプテスト連盟理事会は、去る5月31日から6月2日にかけて2016年度第一回理事会を開催し、連盟加盟諸教会・伝道所のみなさまに以下の呼びかけをさせていただくことにしました。

「あなたがたはわかれ道に立ってよく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩め。」(エレミヤ書6:16 口語訳)

安倍政権は、成立以来、憲法から逸脱した特定秘密保護法や安保関連法を制定し、さらにその集大成として憲法そのものを根底から改変しようとしています。わたしたちは、重大な危機の只中にあります。イエス・キリストの福音宣教を担う教会は、歴史の分かれ目に立ち、多くのいにしえの道(歴史)を尋ね、ただ一つの良い道を求めよという主の言葉を受けた預言者のように、いま、立っています。

今から16年前の2000年、当時の森喜朗首相は「日本は天皇を中心とする神の国である」と公言し、憲法違反との世論を受け、衆議院解散に追い込まれました。しかしこの思想は、安倍政権が目指す憲法改正の精神にそのまま引き継がれています。それは明治から敗戦に至る大日本帝国憲法の精神や、天皇を「現人神」(あらひとがみ)とする国家神道(国教)に基づく国家体制(国体)の復古を目指すものに他なりません。さらにこの動きは、様々な国家主義的宗教団体が中心になって構成されている「日本会議」によって促進、支持されており、現在の国会議員の約四割、そして安倍内閣の八割以上がこのメンバーで占められています。

安倍首相は7月に予定されている参議院議員選挙に関して、与党で過半数、さらに改憲に賛成する野党議員を合わせて改憲勢力全体で議席の三分の二を占めることを目指す、と公言しています。また、憲法改正について「(2018年9月までの)私の在任中に成し遂げたい」と明言しています。今この時、私たちひとりひとり、またひとつひとつの教会がどのように判断し、どのように行動するのかが問われています。戦争に向かう動きに、反対しましょう。わたしたちがかつての、天皇の名の下に遂行された戦争でアジア各地において二千万人以上ともいわれる人々を死に追いやり、自らも苦しんできた「いにしえの道」を尋ね、改めて愛と平和の道を求めたいのです。信仰者として、主なる神、自分自身、そしてこの国が傷つけてきた人々に対する責任は重いものです。歴史において主は誠実であるように、私たちも誠実でありたいと願います。

主イエスの言葉が私たちと共にあります。「あなたがたには世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ福音書16:33 新共同訳)
み国を来たらせたまえ。

2016年 6月 2日

日本バプテスト連盟理事会